

海外の
高級ホテルで
働きたい!

憧れを現実に変える

ホテルインターン

海外のホテルで働きながら現地で生活体験ができるホテルインターンは、語学力はもちろん仕事に役立つ実践スキルが身につくとあって「就職に強い」と人気急上昇！そこでベテランコーディネーターに、ホテルインターンの魅力や求められる人材について聞いてみた。

未経験からスタートできる！ 海外ホテルインターンの魅力

憧れのホテルで働きたい！海外で暮らしてみたい！その両方を一度にかなえてくれるのが海外ホテルインターンだ。英語に自信のない人や、ホテル業未経験の人でも受け入れOKのホテルが多いうえ、おこづかいの支給や宿泊先、食事の提供もあり。現地ではスタッフの一員として働くので、英語力だけでなくビジネススマナリーや実務スキルといった実践力が同時に身につく点も大きな魅力だ。



株式会社ホスピタリティ
人材事業部 トラジャルインターンシップ
コーディネーションマネージャー
長谷川浩太さん
アメリカ正規留学を経験後、旅行会社勤務を経て現職。海外インターンシップのコーディネーターとして5年以上のキャリアを持つ。「海外で何かをやり遂げたという経験は、大きな力になるはず。一人でも多くの人にインターンを経験してほしいですね」

もちろん、海外で働くというのは決して楽じゃない。研修とはいえ仕事をやるからには、与えられた業務に対して責任が生じる。現地での勤務は1日8時間、週5〜6日。その時間を現地スタッフやお客様と接することになるのだから、英語は待ったなしで使

う必要があるし、コミュニケーション力や決断力が常に求められる。そう聞くと尻込みしてしまう人もいるかもしれないが、「自分の可能性にチャレンジする時間だと思ってみよう」と、海外インターンシッププログラムを手がける株式会社ホスピタリティのコーディネーションマネージャー、長谷川浩太さんはいう。

「海外のホテルで働くうえで重要なのはホスピタリティです。誰かのために働きたいという人や、自分の力を試みたいというガッツのある人なら大丈夫！ホテル側は、大切なお客様を任せられる人かどうかを重視しますので、そこまで高い英語レベルは求められません。実際に、ほとんど英語が話せない状態で受け入れ先が見つかった方もいますよ」

続く外資系ホテルの日本進出。 海外でも日本人スタッフ需要増

ホテルで働きたいと考えている人にとって、業界で今どんな動きがあるのかも気になるところだ。これまで日本人が多く訪れる海外の観光地では、日本人スタッ

フを置くホテルが多かった。ところが長引く不況で近年は日本人の海外旅行者数が低迷。対照的に日本企業の海外進出が進み、日本人スタッフの需要もビジネス仕様にシフトしているという。

「最近では企業の進出が多いアジア圏で日本人スタッフの採用が増えています。ビジネススマンは長期滞在することも多く、英語が得意でない方が滞在されるケースも少なくありません。そのため日本語でのケアやおもてなしができる日本人スタッフのニーズが自然と高くなるんです」

特にタイのバンコクやマレーシアのクアラルンプール、香港といった都市部での求人が増えているという。

一方、国内ではザ・リッツ・カールトンやシャングリ・ラといった外資系高級ホテルが軒並み東京へ進出。主だった世界チェーンが出そろって華やかだが、震災の影響で観光業界が深刻なダメージを受けたのも事実だ。

「確かに震災以降、国内市場は厳しくなっています。でも実は、外資系ホテルの日本進出は始まったばかりなんです。ザ・リッツ・カールトンやフォーシーズン

国で働くことになり。ホテルマン同士のネットワークは世界中に広がっていて、横のつながりは非常に強い。それだけに一度海外で人脈ができれば、あちこちから声がかかるんですよ。また、インターン中に現地の日系コミュニティとつながりができて、現地の日系企業に就職するというケースもありますね」

日本企業も注目する グローバル人材の宝庫

日本でも「海外ホテルインターンは就職に強い」と認知されつつある。というのもホテル業界に限らず、一般企業も熱い視線を注いでいるからだ。国際競争の激化や、円高による海外進出の加速化で、日本企業ではグローバル人材の確保が急務だ。グローバル人材とは語学力だけでなく、多様な文化に対応できる柔軟性やタフな精神力を持ち合わせている人。異文化の中で鍛えられた人にしか身につかない素質だけに、海外インターンで培った経験は大きなプラスに働くはずだ。

「海外ホテルインターンは、グローバル人材としての土台を作る場だと考えてほしいですね。大変なことも多いと思いますが、海外での仕事を通して得られた経験は必ず自信につながります。ホテル業だけでなく、どんな仕事に就いても通用する人間力が身につくというのが、長年インターンに関わってきた私の印象です」

ホスピタリティとは人とふれあい、人との縁をつないでいく力。ホテルインターンでの経験はまさに、人生の糧になる大切な財産を得る機会になるかもしれない。海外で働きたい、ホテルの仕事がしたい、人とかかわりたいという人はぜひ海外ホテルインターンを検討してほしい。

やる気次第で、
誰でも参加できる！

ホテルインターンへの道

今回取材した長谷川さんがコーディネーターとして活躍している「トラジャルインターンシップ」のプログラムを例に、どうすればホテルインターンができるのかを申し込みから帰国までを解説！

セミナーや個別説明会に参加

ホテルインターンシッププログラムについて説明してくれるセミナーは東京、大阪、名古屋、福岡で随時開催中。まずは最寄りの会場に参加してみよう。事前に予約すれば個別相談も受けられる。プログラムの内容や費用、滞在中の生活、求められる英語力など、不安なことや疑問点はどんどん確認しておきたい。

仮申し込み

ホテルインターンにチャレンジしたいと思ったら、仮申し込みをして次のステップへ。和文/英文の履歴書やパスポートのコピー、写真を提出する必要があるけれど、インターン先が決まるまで料金は一切からないのがうれしい。

英語レベルチェック

トラジャルインターンシップのコーディネーターと電話で英語面談。あくまで語学レベルを確認するためのもので、安心して話してみよう。内容は「なぜホテルの仕事がしたいのか」「なぜ参加しようと思ったのか」など基本的な質問ばかり。難しく考えずリラックスして。

研修先を選ぶ

働きたいホテルや行きたい国などの希望に合わせて、研修先の候補を案内してくれる。欧米圏のホテルはネイティブ並みの英語力を求められるためハードルが高いけれど、アジア圏は求人が多いうえ、欧米ほど高い英語力は求められないので比較的参加しやすいなど、エリアによって条件や難易度は異なる。コーディネーターとよく相談しながら、自分に合った研修先を選ぼう。

英語インタビュー

希望したホテルのスタッフと英語で電話面接。英語でインタビューと聞くと緊張するけれど、たずねられるのは自己紹介や働きたい理由、将来どうしたいのか、などの基本的な質問。相手は「自分たちの大切なお客様を任せられる人材かどうか」を見極めようとしているので、英語をうまく話すことよりも、人柄が伝わるよう心がけて。原稿を用意するのでもいいが、棒読みは厳禁！



「異文化の中で鍛えられた経験は どんな仕事に就いても 必ず役に立ちます！」

ンズ・ホテルは近々京都、沖縄での展開が決まっていますし、高級リゾートホテルで知られるアマンリゾーツグループは2014年に東京で新ホテルをオープン予定。日本は観光資源が豊富で独特の文化があり、治安も料理も人もよしと、観光国としての要素をすべて持ち合わせています。外資系にとってもまだまだ魅力的な国といえるでしょう」

海外ホテルはもちろん 国内ホテルへの就職率も高し！

海外ホテルインターンのもう一つの魅力は、終りの高い就職率だ。ホテルに

就職するには、かつては専門学校で勉強して新卒採用というルートが一般的だったが、最近はグローバル人材を即戦力として採用するケースが目立っている。さまざまなバックグラウンドを持つお客様をもてなすホテル業において、実地経験は大きなアドバンテージになる。特に実力主義の外資系ホテルでは、能力があればキャリアアップのチャンスは多い。

長谷川さんによると、海外ホテルインターンへの参加者は7割が社会人、3割が学生。大半は就職や転職を目指して参加する未経験者で、終了後はホテルや観光業に就職する人が多い。現地ホテルや企業で採用された。海外就職組も実に半数以上！インターン経験を生かして海外で働くのも夢じゃない。

「海外のホテルマンは、よりよい職を求めて転職するのが当たり前。ましてや世界チェーンで働いていれば、あちこちの

ホテル業界の就職に 有利な5つのポイント

1 海外での仕事経験

海外ではもちろん、国内のホテルでも海外からのお客様は増加しているため、外国人のお客様と接した経験は断然強い。インターンシップで身につけた実践力が有効！

2 人と接するのが好き

身だしなみやマナーを含め、他人に好かれる人であることはホテルマンにとって重要な素質。そのためには、まず人と接するのが好きかどうか重要なポイント。

3 コミュニケーション能力

さまざまな異文化と触れながら働くのがホテル業。特に海外では、スタッフ同士で互いの文化を尊重しつつも、主張すべきところは主張できるアピール力も肝心。

4 英語力

ネイティブ並みのハイレベルが求められる欧米のホテルを除いて、外国人のお客様とコミュニケーションがとれる程度の英語力は身につけておきたい。ホテルや職種にもよるが、目安はTOEIC®600点以上。

5 日本独特の「おもてなし」

日本人のこまやかな心遣いは、外国人には太刀打ちできないもの。海外では日本人VIPをサポートするケースも多いので、社会人としてのマナーやホスピタリティは不可欠。